

新技術の工法 国や県に説明

大野町の山辰組

土木業の山辰組(大野町稲畑)が18日、揖斐川町東杉原の横山ダム貯水池整備工事現場で、ドローンとコンピュータを使って作成した3D設計データを重機に入力し制御する技術「i-construction」の工法説明会を開き、国や県の関係者が参加した。

国土交通省が昨年度から導入を進めている工法。同社では、ダムに堆積した土砂を掘削した後、残土の整地作業を行う際に同技術を初めて採用。盛り土の設計データをあらかじめ重機側に入力しておくことで、作業の効率化や検査の省力化などのメリットがある。

説明会には、工事発注者の国交省中部地方整備局木曽川上流河川



現場の測量に使うドローンの使用方法について説明を受ける参加者＝揖斐川町東杉原

事務所、県揖斐土木事務所などの職員ら22人が参加。ドローンを使った上空からの測量、データ入力されたショベルカーによる整地作業が実演された。

同社の担当者は「熟練のオペレーターでなくても正確かつ効率良く工事を進めることができる」と説明し、参加者は熱心に耳を傾けていた。

(山田雄大)